

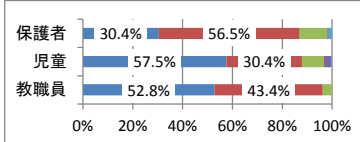
平成29年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐむ教育の推進

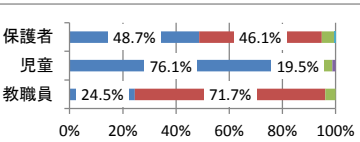
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



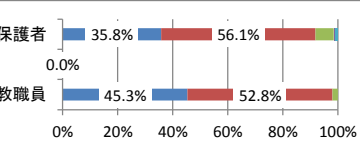
2 友達への思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。



3 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)

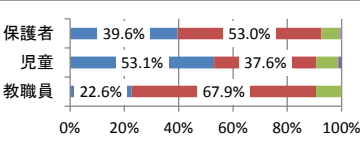


○教職員は子どもを大切にしているについて「そう思う」が子どもの意識は教職員より8%低い結果となっている。全ての子どもを認め励ます機会を設けていく。○ほとんどの子どもたちは友だちと仲良く生活していると感じているが、わずかであるが「そう思わない」もあることから、子どもの日常の観察や声かけを通して確認していく。○心の教育については、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の割合が教職員はわずかだが低くなっている。引き続き、「心タイム」や道徳の授業の充実を図りたい。

②確かな学力を育む教育の推進

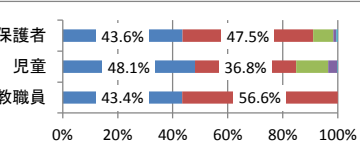
4 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。



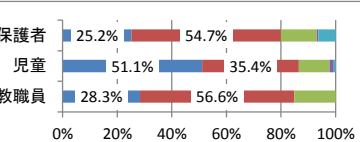
5 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



6 ICT活用

先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。

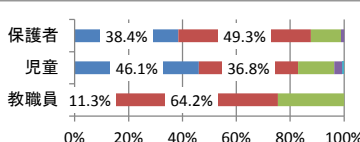


○学習意欲については、保護者、児童、教職員の「そう思う」の割合が高くなった。校内研修でいろいろな教科の授業研究会に取り組んだ成果ともいえる。しかしながら、「勉強がわからない」という子どももいることから、子どもの実態をしっかりと把握し、何をどのように個別指導すべきか学年を中心に検討し、支援に当たりたい。  
○ICT活用については、校内研修を行ったものの、昨年度と変わらない結果であった。ICT機器の常設に向けた整備も考えたい。

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり

子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

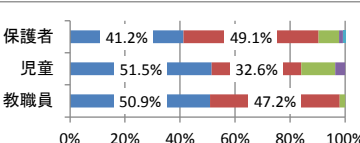


○運動遊びはよく行っている子どもとあまり外で遊ばない子どもと二極化しているため、昨年度とあまり変わらない結果である。運動、睡眠、食事を考えた生活が送れるよう、家庭も巻き込んだ取組を今後行いたい。

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

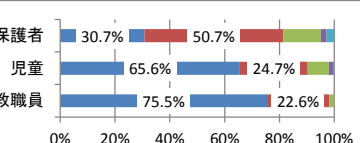
8 児童生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。



9 いじめや問題への対応

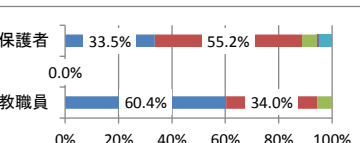
学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。



②特別支援教育の推進

10 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

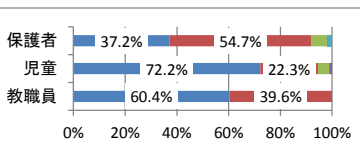


○児童理解について、教職員に「どちらかといえばそう思わない」がわずかであったことは残念である。児童、保護者にも「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」があったことから、教職員がもっと児童を褒め、自尊感情を高める必要がある。  
○いじめや問題への対応について、児童だけでなく保護者も「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と答えていることから、アンケートだけでなく、日頃の児童の様子の変化をとらえられるよう、積極的に話かけるなどコミュニケーションをとりながら、観察眼を磨く必要がある。  
○保護者の無回答が多かったことから、インクルーシブ教育への啓発がまだ足りていない。子ども一人一人を大切にすることを今後も進めていく。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

11 安全と事故防止

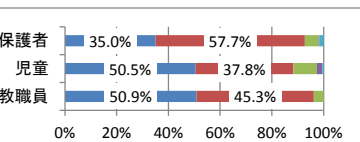
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



②最適な学習環境の整備

12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

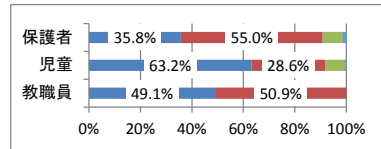


○教職員の意識が昨年度に比べ高まっている。生徒指導による事故発生の分析と予防の呼びかけの成果である。教職員の意識が児童にもしっかりと根付くよう同一歩調で学校全体で声かけをしていく。  
○安全点検は叩いたり、揺らしたりしながら、細かいところまで行っている。点検後の修理等も迅速に行っている。危険な場合の児童への注意喚起も継続していく。

### ③家庭・地域社会との連携強化

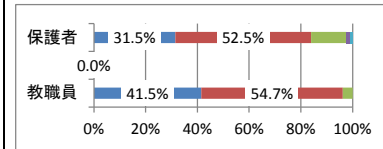
#### 13 教育方針・目標の理解

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



#### 14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

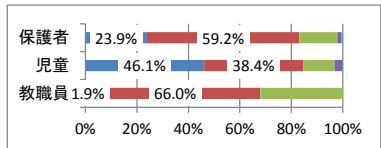


○保護者と教職員の教育方針・目標の理解について「そう思う」が昨年度に比べて大きく伸びているのは、学校便りやHPでの取組の紹介によるものだと考える。ただ、家庭や地域との連携協力は昨年度より教職員の意識に「どちらかといえばそう思わない」が出現している。ジュニエコの取組を広め、地域との連携がよく見えるようにしていく。

### ⑧本校の教育

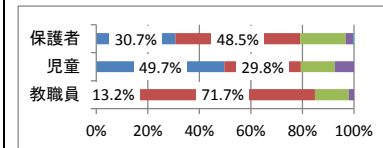
#### 15 1友だちへの思いやり

子どもは、相手を大切にできる言葉づかいができていますか。



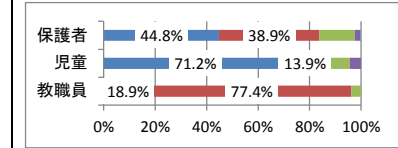
#### 16 2家庭学習

子どもは、毎日、忘れずに家庭学習をしていますか。



#### 17 体力向上

子どもは、体力向上につながるような運動遊び(部活動も含む)ができていますか。



○相手を大切にできる言葉づかいができていないについて「そう思う」と回答した保護者、児童、教職員はわずかだが増えているものの、「どちらかといえばそう思わない」とする回答は昨年度とあまり変わらない。「そう思う」の回答が増えていることには、道徳の授業や人権教育を大切にしている成果だと考える。毎年少しずつ「そう思う」が増えるように今後も「相手を大切にできる言葉」について考える機会を設けていく。  
○家庭学習は「そう思う」と回答した保護者、児童、教職員が増えている。児童個別に家庭学習への対応を行っている担任が多いことも一因だと考える。  
○運動遊びについて、「どちらかといえばそう思う」と回答した教職員が昨年度に比べて増えている。教職員が積極的に外で児童と遊んだり、声をかけたりしている成果である。企業の助成金を活用して体育用のボール類も揃い、体育の授業の充実を図ることもできた。

### 来年度の具体的な取り組みについて

○教育目標方針については、学校便りやPTAや諸団体会合などあらゆる機会を通してさらに情報発信を行う。児童にも分かるよう教育目標にある“たい”を効果的に活用したい。  
○毎時間の授業の充実のために学年で教材と教授の共有化を進めるとともに、学習が厳しい状況の子どもたちへの個に応じた学習の充実を図る。  
○保護者や地域の協力を得ながら「働き方改革」に取り組み、児童一人一人に授業でしっかりと向き合えるよう教材研究等に努める時間を確保する。  
○本年度成果があったジュニエコの取組を6年生の総合的な学習の時間に組み入れたり、オリンピック・パラリンピックムーブメント事業を核にした教科等の授業を展開したりしながら、学ぶ楽しさやためになる学習を実感させ、児童の学校生活での満足感と自己肯定感につなぐ。  
○「危機管理のさしすせそ」を全職員で意識して取り組むとともに、いじめや不登校については全職員で情報を共有しながら、チームで対応に努める。  
○「こころタイム」(屋の放送)でいろいろな教職員が担当し、実際に体験した話や感銘を受けた偉人の話などを紹介し、児童の心を耕し、自分の心を律するなど道徳性を高めていく。

### 学校関係者評価

○学習発表会では、子どもたちが熱心に学習した成果が表れており感激した。学校教育目標の実現に向けて、学校長をはじめ、全職員が“たい”が跳ねる学校づくりを目指していることが分かる。取組をどんどん発展させてほしい。  
○授業参観では先生方がよく工夫して授業を行っていることがわかった。一人一人に丁寧に接しているし、子どももよく学んでいる。  
○子どもフォーラムでの情報モラル教育講演は、親より児童が先に進んでいることが分かった。このような講演はもっと親が聞いて学ぶ必要がある。たくさんの保護者に聞いて欲しい。  
○交通安全・防犯では、地域も児童の見守りや声かけを行っている。防犯カメラも地域で設置する予定にしている。さらに協力できることがあれば力添えをしたい。  
○家庭と地域の連携を深められるよう、さまざまな取り組みの見直しも今後必要である。学校ともさらに連携していきたい。  
○子どもひなの家についての見直しと1年生の保護者と子どもと一緒に下校する初日に子どもひなの家に挨拶に行くなどの取り組みがあると、子どもにとってもっと身近な子どもひなの家になると思われる。